

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2015 年第 29 週
(7/13~7/19)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

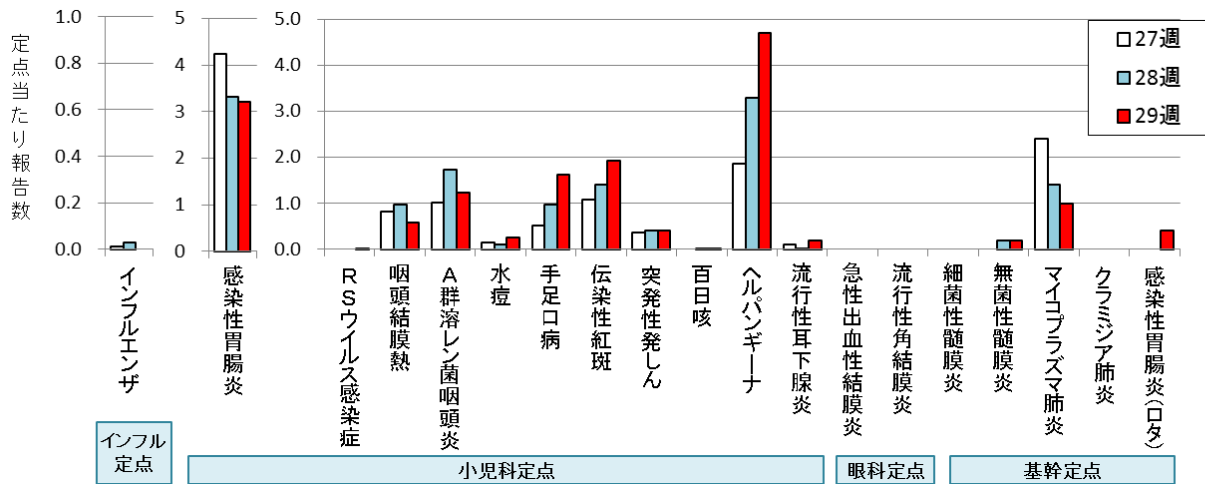
- ◇ 伝染性紅斑がさらに増加しています。→トピックス
- ◇ ヘルパンギーナが流行しています。→トピックス
- ◇ 手足口病が恵那保健所管内で急増しています。岐阜、中濃保健所管内でも増加傾向にありますので、今後の動向に注意が必要です。

■ 定点把握対象疾患 (インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所)

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所 (定点当たり報告数)
警報レベル	咽頭結膜熱	恵那 (3.75)
	手足口病	恵那 (5.25)
	伝染性紅斑	岐阜市 (2.11)、岐阜 (2.80)、東濃 (3.80)、恵那 (3.00)
	ヘルパンギーナ	関 (12.60)、東濃 (8.60)
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 9 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：レジオネラ症 2 例
- 5 類感染症：梅毒 1 例

● 2015 年累計

1 類感染症	なし	
2 類感染症	結核	201 例
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5 例
	腸チフス	1 例
4 類感染症	つつが虫病	1 例
	レジオネラ症	18 例
	デング熱	5 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	11 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	26 例
	ウイルス性肝炎	2 例
	水痘 (入院例)	3 例
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8 例
	梅毒	4 例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4 例
	播種性クリプトコックス症	1 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 例
	破傷風	1 例
	後天性免疫不全症候群	12 例
	風しん	1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例
	麻しん	1 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■トピックス

《伝染性紅斑（リンゴ病）》

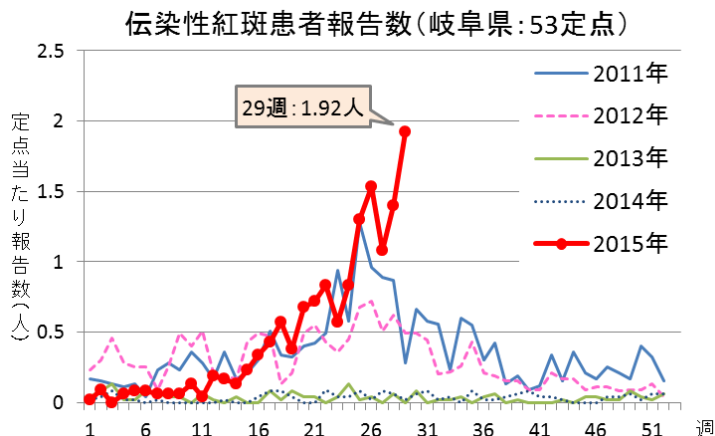
◆ 過去 10 年間で最多の患者数となっています！

今年、全国的に伝染性紅斑が流行しており、県内でも 2012 年以來の流行となっています。

県内 53 の小児科定点医療機関からの第 29 週の患者報告数は、定点当たり 1.92 人と、過去 10 年間で最多となっています。

岐阜地区、東濃地区で特に患者が多く報告されています。

患者の年齢は、4～5 歳を中心に小児の幅広い年齢層で報告されています。



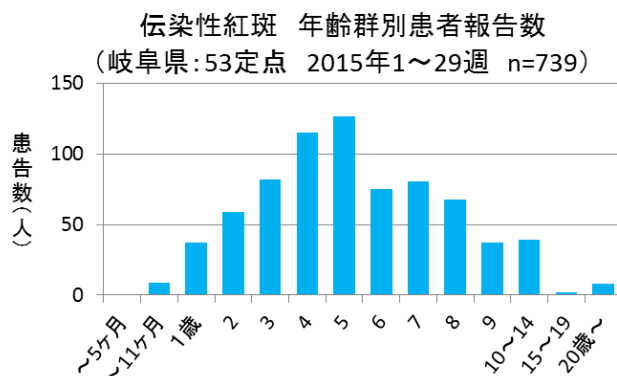
◆ 妊婦の方は特に注意が必要です

伝染性紅斑の原因ウイルスは、患者の唾液や鼻水、たんなどに排出され、飛沫感染または接触感染により周囲に広がります。

伝染性紅斑に特徴的な紅斑や発疹が現れる頃には、すでに周囲への感染性はなく、紅斑や発疹の現れる前の潜伏期に周囲への感染性があります。この時期にかぜ様の症状がみられることが多いとされていますので、感染を拡大させないためには、咳などの症状のある人はマスクを着用するなど咳エチケットが重要です。

また、予防には手洗いなどの一般的な感染対策が大切です。

妊婦が感染するとまれに流産などを起こす場合がありますので、妊婦の方は、手洗いを励行し、かぜ様症状の人に近づくことを避けるなど特に注意が必要です。



★伝染性紅斑とは

ヒトパルボウイルス B19の感染による発疹性疾患で、両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」とも呼ばれます。10～20日の潜伏期間の後、両頬の紅い発疹に続き、腕・脚部にもレース様の発疹がみられます。成人では関節痛・関節炎を起こすことがあり、また妊婦が感染すると胎児水腫や流産を起こす場合があります。

★感染症法における取扱い

伝染性紅斑は、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 3,100 か所 (岐阜県 53 か所) の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちら。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouh-ou-kijun.html> (保健医療課 HP)

《ヘルパンギーナ》

◆ 流行しています！

第 29 週の県内の患者報告数はさらに増加しています。

保健所別では、関保健所管内で定点当たり 12.60 人、東濃保健所管内で定点当たり 8.60 人と、特に多くの患者が報告されています。

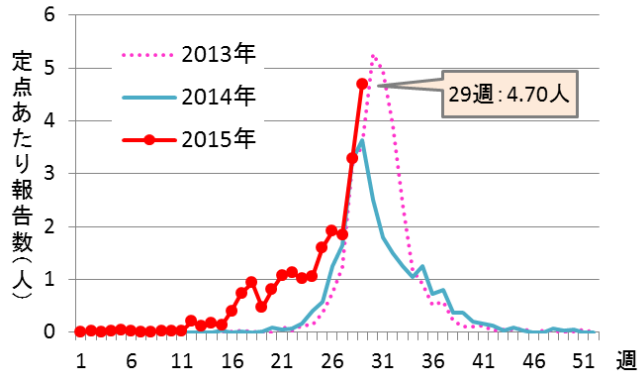
患者の年齢は 1～3 歳が多く、次いで 4～5 歳と未就学児が大半を占めています。

◆ 手洗いを励行し感染予防対策を

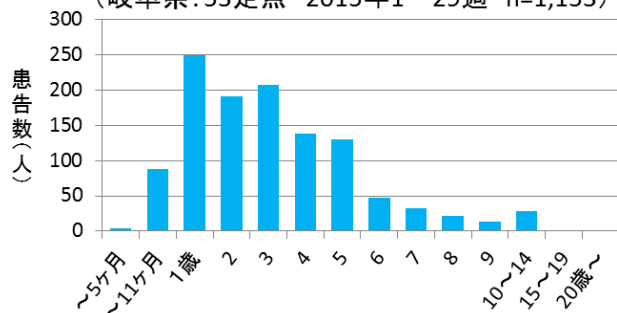
ヘルパンギーナの原因となるウイルスは、患者の鼻汁や便に排出され、飛沫感染や接触感染により周囲に広がります。予防には、こまめな手洗いを励行し、おむつなど汚物の処理を適切に行うことが大切です。

咽頭結膜熱や A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎も、今年は患者が多数報告されています。また、手足口病の動向にも注意が必要です。これらの感染症予防のためにも、好発年齢の子どもが集まる保育所や幼稚園などでは、日ごろから一般的な感染予防対策を徹底することが重要です。

ヘルパンギーナ患者報告数(岐阜県:53定点)



ヘルパンギーナ 年齢群別患者報告数
(岐阜県:53定点 2015年1～29週 n=1,153)



★ヘルパンギーナとは

エンテロウイルスの感染による小児の夏かぜの代表的な疾患です。口内の水疱性発疹と発熱を特徴とし、一般的には予後良好とされています。

★感染症法における取扱い

ヘルパンギーナは、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 3,100 か所（岐阜県 53 か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちら。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouh-ou-kijun.html> (保健医療課 HP)

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>